

おーぷん

社会福祉法人さざんか会法人広報誌『おーぷん第80号 2019春』

発行：さざんか会法人本部/船橋市行田 2-8-1/☎047-404-1135

編集：おーぷん編集委員会/けいよう/船橋市二和西 5-10-1/☎047-411-8177

○30年経ちました
平成元年、国によるグループホーム制度が誕生しました。以来、まる30年を経て今日を迎えています。

全国に百か所、予算一億円で始まった制度でしたが、30年後の現在そこに入居している人は、全国に約11万9千500人に上ります(国保連・28年10月統計)。

特に驚いたのが、千葉県においてこの時点で施設に入所している人が4千254人、グループホームを利用して居る人が4千431人、とうとうグループホーム入居者数が施設入所者を上回りました。北海道や東京都、神奈川県等は以前からこうであったのですが、とうとう千葉県まで…。あと2、3年はかかるのではと、思っていたのですが、

『グループホーム、30年』 社会福祉法人さざんか会 理事長 宮代 隆治

各自治体で作られた障害者計画、その中にグループホーム整備の数値目標が掲げられていま

す。計画の進捗により確実にグループホームは増加して来ましたが、障がい福祉の他の施策に比べても、グループホームの整備は全国的に着実に遂行されているようです。

量的拡大の一因としてグループホームの大型化が考えられます。制度誕生時のコンセプトの一つに「家族的な」という事がありました。4、5人程度が暮らす場所というのが一般的であり、

おーぷん80号目次

P1 「グループホーム30年」
さざんか会 理事長 宮代隆治

P3 権利擁護はいま
社会福祉法人千葉市手をつなぐ育成会
でい・さくさべ
施設長 濱本 典子 氏

P4 寄稿『卒園にあたって』
・とらのこキッズ保護者
宇田川 睦 氏
・さざんかキッズ保護者
村上 牧子 氏

P6 各事業所冬だより
・けいよう
・のまる
・ゆたか福祉苑
・カメラアハウス
・とらのこキッズ
・さざんかキッズ
・DD・のまのまホームズ
・魔法のランブ

P10 北総の里だより
・北総育成園
・笹川なすな工房

P12 後援会だより

定員も7人までであったか。それが、定員は10名までとなり、1敷地内に2ホーム、つまり20名の暮らしが同空間で可能となり、自治体によっては更なる人数増も可能とか。

信じられないのが、10名定員のホームが並んで建てられ、全体で80名の定員を抱えるグループホーム群が出現した由。これをグループホームと呼んでも良いものか、大変悩ましい現象です。

これからも、グループホームは増え続けることと思います。それだけ、整備に期待する多くの人たちがいらっしやいます。当法人を見ても、例えば高齢のご家族に見守られながら通所の事業所をご利用する多くの方々がいらっしやるのであり、この先ずっとご家族一緒に、という事の厳しさは自明の理です。

○私たちの出発

最初、千葉県制度である生活ホームの運営から始めました。平成七年のことです。「長尾ホーム」と「さざんか荘」です。当時、グループホーム入居の条件には就労要件があったり、運営にバ

ックアップ施設として入所施設が求められたり、グループホームを構えるに高い壁がありました。その点、県制度は入居要件も緩く、運営自体にも弾力的な取り組みが可能でした。

私たちの取り組みの特徴は、重い障がいのある人のグループホーム利用に、積極的に取り組んだことだと思えます。限られた人だけではなく、希望する人皆が利用できることが当然と考えていました。入居者全員が重度の障がいがあるという事は、当時は大変珍しがられました。

○ニーズにへんて

時代と共に制度も変わり、就労要件やバックアップ施設の要件等も撤廃されました。重度加算制度も作られ、より多くの人利用に途が開かれました。私たちも次々にグループホームを誕生させました。こうして、現在船橋市内に一四か所、東庄に一か所の一五ホームに六七名の方が住まわれています。ホーム開始から二四年目を迎えました。この間、全てが順風満帆とは言いませんが、入居者やご家族各位のご協力、そして職員

の精勤や地域の方々からのご支援等により、皆さんの暮らしを支えることができたようです。

○グループホームの今後は

グループホームが注目された理由の一つは、障がい者の生活の場を広げたという事です。それまで、親が元気な間は親が面倒看て、それが出来ない時は施設に預ける、という謂わば宿命的なストーリーしかなかったものを、第三の方法として家庭でもなく、施設でもない地域での小集団の暮らしを実現させた、という事です。そして、その暮らしは、生活の主体者として自立した自分らしい暮らしの実現が約束されなければなりません。

障がいがあるうがなろうが、自分らしい暮らしは誰しも望むところです。ただ、障害が故に思いが届かず、限定された望まぬ暮らしを強いられて来た悲しい歴史があったことも事実です。

「一人暮らしがしたい」、「結婚して好きな人と暮らしたい」等も当然です。要は、可能な限り自分の暮らしを自分で作るという事です。その可能性の幅をもっともっと広げなければ、という

事でしょう。グループホームは、その一つに過ぎません。障がいのある人の暮らしの場として、グループホームが主流となりつつある今日、グループホームの次に来るものを見出す努力が要されます。



権利擁護はいま

「虐待防止と職員のメンタルヘルス」

社会福祉法人千葉市手をつなぐ育成会

でい・さくさべ 施設長 瀨本 典子

平成31年1月26日(土)千葉
県虐待防止アドバイザーとして
県から派遣依頼を受け「障害者
虐待防止とメンタルヘルスを学
ぼう!」と題して、さざんか会職
員の皆様(65名参加)を対象に
研修をさせていただきました。
事前にいただいた「希望する助
言」には「現場の職員が日々の支
援の中で、疲れの要素や職員の
コミュニケーション等の問題か
らメンタル的な部分で疲弊して
いるという声を聞く。ストレス
がたまったら時に職員はどのよう
な行動に走りやすいのか、職員
のメンタルヘルスと虐待の関係
は?」がご依頼の内容でした。

虐待を防止するためには、法
律の理解、法人の理念、支援への
知識・技術、職員間の関係性、人
員配置、組織の透明性等様々な
問題を解決しなければなりません
が、多くの現場職員が抱えて
いる課題が「メンタルヘルス」だ
と思われまます。平成29年度厚生
省が実施している「障害者虐待
事案の未然防止のための調査研
究」報告書より、虐待の発生要因
の52%が「ストレスや感情コン
トロールの問題」と回答してい
ます。このことは、虐待と職員の
メンタルヘルスとは大きく関係
しており、このメンタルヘルス

を良好なものにしなければ、虐
待が発生するということでは、虐
待は、どのようにしたら、メンタ
ルヘルスを良好なものにしてい
くことができるのでしょうか?
現場の職員のレベルで取り組む
ことと管理者の立場で取り組ま
なければならぬことに分けら
れますが、今回は、現場の職員へ
の取組みに焦点を絞り、お伝え
しました。まずは、自分の中で発
生する「ストレス」の原因がどこ
からくるのかを探り、「自分のス
トレスサインを知っておくこと」
からです。人間は過剰ストレス
状態になると、物事の全体が見
えなくなり、仕事の現場で孤立
してしまします。誰にも相談で
きなくなる状況下において、目
の前にいる弱者に対して攻撃的
になってしまう傾向にあります。
この状態に陥る前に、自分特有
のストレスサインを自覚してお

くことをお勧めしました。不安・
疲労・痛み・仕事量・環境・気軽
に相談できる人等の57項目のス
トレスチェックを実際に体験す
ることも自分のストレス度を
測ることが出来ます。こんなス
トレスですが、自身でコントロ
ールする方法もあります。悩み
を体の外に出すために、涙を流
して泣くこと、汗をかくこと、話
すこと、書き出すことが有効で
す。アンガーマネジメントも含
めて、自身のストレスの状態を
自覚し、それを周りの職員に発
信し、困った時には「チームで解
決する」ことを強調しました。
参加者の質問から、現場の職員
は「本当にこの対応で良いの
か?」と迷いながら支援をされ
ていること、困った時に「助けて
ほしい」と発信することが難し
いことが伝わってきました。
メンタルヘルスは、自己覚知
自身の内面と向き合うことから
です。周りの人を見るよりも、自
身の内面と向き合う方が困難な
ことも想定できます。しかし、そ
れを知ることからメンタルヘル
スはスタートします。まずは、自
分自身を知りましょう!そして、
より良い支援を考えましょう!



笑う門には きざと

「この子の成長はいつ頃みんなに追い付きますか?」まだまだ勉強不足の母親からの質問に担当医は、「ずっと追いつかないよ」と、この一言が全ての始まりでした。発達障害(知的障がい、自閉症スペクトラム)を理解し、向き合い、受け入れる。という大きな課題に。

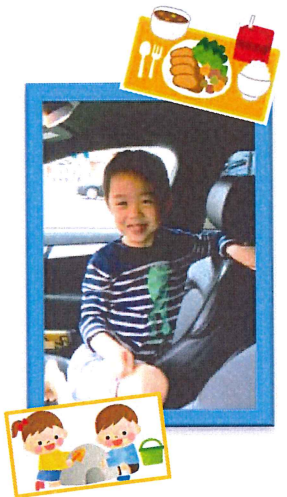
三つ上の娘はおしゃべりで活発、峻ノ介は二歳の誕生日を迎えても意味のある言葉を発しませんでした。この対照的な子供達と主人の祖母との同居、かなり過酷な毎日でした。「個性?個性なんていらない!ただ穏やかに楽しく過ごしたいだけ!」「健常だったら、こんな苦労しないのに!」心の中で何度叫んだ事でしょう。玄関を開けた瞬間に飛び出してしまふ、そんな多動な息子。とても私一人ではお散歩にも連れて行けませんでした。

まずは『お言葉教室』そして次は『親子参加の療育教室』。このお教室では、峻ノ介はどう鼻目に見ても、誰よりも取り組めない子でした。お教室に行く事が息子にとって有意義な事だと理解していましたが、息子の発達の遅れを更に強く感じ、認めなくてはならない、とても辛い時間でもあり

ました。民間の『運動療育』『セミナー』など、「良いと聞けば試してあげたい!」「どこにか成長を促してあげたい!」と、あちらこちらへ奔走しました。

四歳の春に、待望のとのらこキッズに入園する事が出来ました。異例の年少さんのみのクラスでした。園長先生から、入園決定のお電話を頂いた時に、嬉しくて涙が出てしまった事を昨日の事のように思い出します。同じ悩みを抱えた優しく頼もしいママ友も増えました。園の先生方の配慮に配慮を重ねた親子へのご対応に感動しました。自身の精神面もかなり救われました。

登園にあたり、体幹がしっかりしていない息子を自転車のシートに座らせてバス停に行く事がとても不安でしたが、少しずつ慣れ、息子も風を感じて楽しく乗れる様になっていきました。幸いバスに乗る時に愚図った事は殆どありませんでした。続いている問題は給食です。バランスの良い美味しい給食をほぼ食べてくれませんでした。担任の先生から、「好物を提供しましょうか?」とご提案頂きましたが、お友達と同じ時間に同じ物を食べる事を大切にしたい為、「そのままです」とお願いしました。年中さんになる頃にはまさかの完食が増えました。「先生って凄い!」と思いました。そして着衣問題、下着の形状が変わる季節の変わり目は着替えだけ



でも、時間がかかりました。上着、帽子なんて以ての外でした。そんなある日、園庭を見学してみるとなかなか息子を探せませんでした。何故なら上着を着て帽子を被る息子が楽しそうに走り回っていたからです。びっくりし、嬉しく思い、そして笑えました。そんな息子は今では、園や家庭でもおトイレに行く様にもなりました。

名前を呼んでも好きな事に夢中で振り返りもしなかった息子が、言葉のコミュニケーションは無 いものの、意思の疎通がはかれる様になり、今では大人の顔色を伺いイタズラをし、悪い顔で笑ったりしています。親子だけの生活ではこれまでの成長は無かったと思います。『言葉、会話、コミュニケーション』と、親の方が抱り過ぎていたのかもしれない。決して自分を不幸だなんて感じていないであろう息子を勝手に不憫に思うのは間違っているんじゃないか?と、考える様になりました。私が世界で一番の理解者になり、まずは自分の身の回りの事は自分で出来る様にしてあげる事の方が大切なんだと。これから

とらのこキッズ保護者
宇田川 睦

も家族だけでは乗り越えられない壁が立ちはだかる事でしょう。今日までの先生方の寄り添ったご支援、「ご指導を糧に、息子の笑顔が一分でも多い人生となる様に皆さんの手を借りながら、親子で頑張っていきたいと思います。そして、そんな個性の強い弟をもつ娘の未来もしっかり見守っていきたいと思います。実家の母にも、通常の育児では無い為、ぶつかり合いながら協力してもらっており感謝しています。希望しても年少が全員入れない状況の中、他の親子さんには大変申し訳ないですが、三年間とらのこキッズに通う事が出来た事が息子にとって、いや、親子にとって『自信』となりました。卒園後に峻ノ介の成長した姿を先生方に見ていただけたらと思っております。

これまで、大変お世話になりました。本当にありがとうございます。



「卒園を迎え」



私の息子は、お陰様で4月より特別支援学級に入学します。好奇心いっぱい。元気いっぱい。笑顔いっぱい。の1年生になります。



息子との6年間を振り返ってみて……

元気な誕生に、幸せと喜びと「これから」を想像したりと、ワクワクしていた0才の頃。

息子とベビースイミングやリトミック等、何をしていても楽しくて、泣き顔すら愛おしくて仕方のない毎日だった1才の頃。

何となく周りの子との違いに気づきながらも、男の子だからと自分に言い訳し、1才半検診も、気になる事を質問することが出来ず、ネットや本で調べたりしていたものの、現実と向き合えずにいた2才の頃。

この頃から気持ちの整理もできないまま何かしなくてはと焦りだけが募り、民間の療育スクールに

通い始めました。

言葉、おむつ、運動面などの遅れに目を向ける事の出来ない現実の中、避けてきた発達検査を受ける気持ちになりました。結果、全領域67。このような知識はなく「発達障害」という言葉に、ただショックと同時に「やっぱりな……」と思う気持ちでいっぱいでした。息子の寝顔を見ながら、受け入れなければならぬ事実に戻っていた3才の頃。

その後、時間はかかりましたが、息子と向き合うことを決め、少しでも改善するならばと、療育について勉強したり、スクールの先生方からアドバイスを頂いた事を、生活の中に取り入れてみたりしました。そんな折、幼稚園の先生から受け入れて下さる話もあり、喜びと不安の中プレ教室に行き入園の準備を始めました。しかし、療育のある「さざんかキッズ」との迷いもありました。

中々言葉もでない、何か嫌な事があれば叫び、リピート癖、回る物大好きなどの現状から、療育のある「さざんかキッズ」に通わせたいと決め、願い望みを持ちなが

ら入園する事が出来た4才の頃。

今まで病院とは無縁だった私は、

今後、診断名等の必要性から、知人に勧められ、千葉大学付属病院に行く事を決めました。改めて発達検査を行い結果「軽度の知的遅れが見られる。自閉症スペクトラムの傾向があります。」と言われた言葉が具体的過ぎて、今までの覚悟や障害を受け入れていたはずの心が崩れてしまいました。「障害は病気ではありませんので治る事はないです。普通を100としたら99

迄近づくと事は出来るかもしれせん。何よりもその子の心を大切に

してあげて下さい。」と言われ、希望とも絶望とも思える医師の言葉に戸惑う私をよそに、先生方の手厚い園生活の中で少しずつ慣れ、自分の居場所をみつけたかの様に、毎日楽しく通い、バス停への足取りも軽く、ゆっくりですが成長が目に見て解る様になった5才の頃。

最近では園での生活を、『カタコト』ですが話してくれます。また、得意気に歌ったり、踊ったりしてくれます。嫌なことは「イヤ!」と言える様になりました。温かい見守りの園の中で、つぼみが少しずつ

つ開花していく様な成長を感じられる6才の今。

園での2年間は、息子の心の中で温めていた物が形となり一歩…二歩と確かに歩み始めました。

ひとえに、親子共々支えて頂き、いつも側に居て下さった先生方に感謝しております。

息子にとっても、私にとっても、安心できる場所でした。そして、園で出逢えたお友達、いつも見守って下さっている沢山の方々に感謝しております。同じ子供を持つ親同士と心通わせる時間は、私の心の癒しとなり活力にもなりました。

これからも悩む事も多々あると思いますが、夫と二人三脚で歩調を合わせ、息子と歩んで行こうと思えます。

さざんかキッズ 保護者

村上 牧子



けいよう

まだまだ寒さが残りますが、皆様どうお過ごしですか？けいようでは、寒い中でもお散歩に出掛け、たくさん歩いて体を温めています。今回は秋から冬にかけてのイベントの様子をお伝えします☆

★ふたわ福祉まつり★

11月10日（土）に二和公民館で行われた『ふたわ福祉まつり』に、けいようフラダンスチームのハイビスカスが参加してきました。

ステージに立つと少し緊張気味なメンバーでしたが、会場の手拍子と共に次第にいつものような笑顔で踊ることが出来ました♪お客さんや係の方から「よかったよ〜！」というお言葉をいただき、少し照れ臭そうに笑うフラダンスメンバーでした。



★お茶会★



少人数のグループに分かれて午後の活動時間にお茶会に行ってきました。ファミレスや喫茶店、おしゃれなカフェと行き先は様々です☆

魅力的なメニューと睨めっこしながら、利用者さん各々お好きな飲み物とデザートを頼みました。お昼ご飯を食べた後ですが、大きなパフェやパンケーキなどペロッと召し上がっていました。

お腹も満たされ満足げな表情の利用者さんでした。いつもとは違う午後の時間を堪能しました！



暖かい日も増え、春らしさを感じられる季節となりました。季節は少し遡ってしまいますが、今回はのまるのビッグイベント、クリスマス会の様子をお伝えしたいと思います。まず初めにスタッフによる『おおきなかぶ』ならぬ『おおきなかぼちゃ』の劇が披露されました。見慣れたキャラクターの登場に皆さん大喜び、会場がたくさんの笑いに包まれました。



最後に宝探しを行いました。箱の中から皆さん一生懸命お宝を探されていました。たくさんのおやつの景品が当たり、皆さん大喜び。たくさん笑顔があふれるクリスマス会となりました！また、皆さんの笑顔があふれる楽しい行事を行いたいと思います♪

次にのまるスタッフで結成されたバンドがクリスマスソングを演奏してくれました♪素敵な演奏に皆さんうっとり。皆さん歌が大好きなので一緒に歌ったり、体を揺らしたりと楽しそうに参加されました。



ゆたか福祉苑

早いもので平成30年度も残り僅かとなりました。個人的な話ですが、私は平成元年の生まれで、「ゆとり世代」とか「平成チルドレン」等と呼ばれていた世代です。懐かしいですね。

しかし、気が付いてみれば平成も31年。私より若い「平成生まれ」が世の中に溢れています。2000年代の生まれの人を見ると、もはや未来人のようにさえ感じてしまいます。ああ、歳を取ったんだなあと感じる今日この頃、それでもまだまだ若い！と自分を鼓舞しつつ、今年1年も邁進して参ります。宜しくお願い致します。(駒田)

さてさて。ではゆたか福祉苑の冬の様子をご報告させて頂きます。事業所全体での催し事等は今回ありませんでしたが、各班それぞれに冬のイベントを執り行っていたので、そちらをご報告させて頂きます。



ラベンダー班のクリスマスコンサート。
班職員他、DDの渡邊さんもライブに参加しました♪



カモミール班とライム班、合同のクリスマス会です。
みんなでお昼を食べて盛り上がりました。

カメラリアハウス



★忘年会

支援員 細貝 歩

12月に毎年皆さんが、楽しみにしている忘年会&クリスマス会が、行なわれました。施設内でピザやオードブルを囲みプレゼント交換するグループもあれば、カラオケ店に行き美味しい料理を囲みながらカラオケを楽しんだグループもありました♪楽しい時間を過ごし、来年も頑張ろう！と締めくくった一日になりました。



★はーとふるメッセ出店

支援員 松田 夏美

1月25日(金)に柏イオンモールにて千葉県障害者就労事業振興センター主催のはーとふるメッセという合同販売会に出店しました。千葉県内から施設が集まり、施設自慢の製品を販売しています。

今回、少し時期としては早いですが、「おひなリース」を目玉商品として出品しました。手にするお客さんも多く、嬉しいことに完売です。この作品は、多くの利用者さんと職員の手がかかった自慢の商品です！今回、利用者さんは販売に参加出来ませんでした。販売の様子や売れたことなどを利用者さんにお伝えして、嬉しさや今後の作業への意欲など一緒に共有していきたい、と思う一日でした。



わいらのキッズ 冬の思い出

冬といえばクリスマス★みんなの大好きなサンタさんにたくさん会うことができたので、その様子をお伝えします☆

①クリスマス発表会 みんなの前で発表することとドキドキしながらも、クリスマスツリーやケーキの飾り付けを頑張る姿に感動しました!!発表を頑張った後は、保護者の方とダンスをしたり、職員によるパネルシアターを見たりと、ゆっくり過ごす中でたくさん笑顔も見られました☆

②太陽さん お隣の身体障害者福祉作業所太陽さんにて行われたクリスマス会にお招き頂いたので、みんなで参加しました。サンタさんから菓子のブーツを貰い、大切そうに抱えて帰る姿がとても印象的でした♡

③イオンさん 船橋イオンさんより、今年はプラレールやアイス屋さんセット等の玩具を頂きました!!新しい玩具が増え、大喜びでした☆

④クリスマス当日 ニクラスずつに分かれてクリスマス会をしました。さくら・ひよこ組はカラオケ大会、こあら・いちご組はみんながサンタさんに変身♪それぞれ楽しそうな声が響き渡っていました♡

この一年、行事や活動を通して、子ども達の色んな表情、成長した姿をたくさん見ることが出来ました♡



①



②



④



さざんかキッズ

冬と言えばクリスマス★さざんかキッズでも、クリスマス会・発表会を行ないました。発表会では歌や劇、合奏：クラス毎に好きなこと・得意なこと等、日々取り組んでいることを保護者の皆様に見て頂きました。

後半のクリスマス会では、毎年恒例?!の軍手隊や保護者の方とのダンスを楽しんだ後、お待ちかねのサンタさんの登場♡プレゼントを受けとって皆とても嬉



軍手隊
がんばりました♡

にし組(肢体クラス)のクリスマス会では、年長さんによる点灯式で大盛り上がり☆みんなで賑やか和やかムードの楽しい時間を過ごしました♪



とっても可愛い
ちびっこ
サンタさん♪

ししまい集会♪

年初め、今年も元気いっぱい過ごせますように：☆と、毎年お獅子に頭をかじってもらっているさざんかキッズの子どもたち。今年はお餅で餅つきもして、お正月気分を満喫しました!!

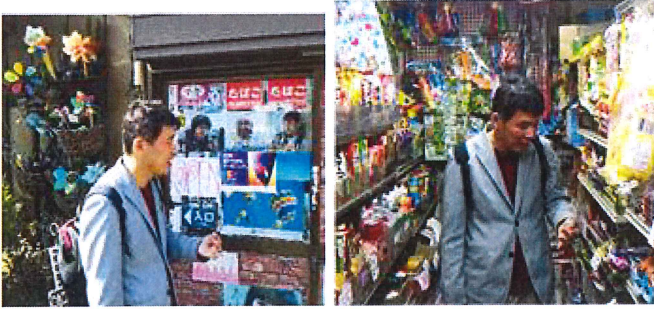
豆まき♪
お獅子に引き続き、2月は赤鬼が登場!!練習の成果を發揮して、「鬼は〜外〜!!」と力を合わせて鬼退治!!みんなで福を呼び込んで、今年が良いこと尽くしの1年になること間違いなし♡

みんな元気に健やかに、笑顔あふれる1年になりますように…♡



今回のホーム便りのはのままホームズたんごの入居者の方と共にたんごは周辺はどういったところかを紹介していきます。

今回紹介していただく方はたんごの小林さんです。週末にスタッフと一緒に外出されるのを楽しみにされています。

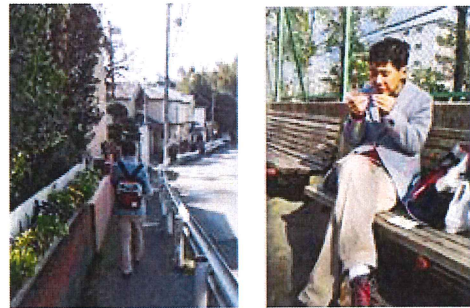


周辺には昔ながらの駄菓子屋があり、お気に入りのお店です。店内の品揃えも豊富でどれにしようか迷ってしまいます。



大小様々な公園が多くあり、陽当たりも良いので購入したものを口にしながらゆっくりと過ごせます。

道路状況はやや坂の多い立地ですので場所によっては少々歩くのが大変ですが大通りはしっかりとガードレールもあり歩きやすいです。



ランプ発

こんにちは。いつもご拝読感謝申し上げます。

さて、今回は、編集の方より当事業所の年度のまとめをして締めくくってほしいという依頼があり、潜越ながら私、山田が原稿を書きたいと存じます。

今年度の魔法のランプは、ヘルパーの減少と共に、利用率もかなり減ってしまい、非常に伸び悩んだ年でした。また、折角入職して頂いたヘルパーさんが立て続けに体調を崩してしまい、戦線離脱されています。しかし、1名の方が復職して頂き、感謝の極みです。今年度は新ランプとして4月からスプリネクス（スプリンクラ）付きの部屋を用意していますが、折角付けたにも関わらず、あまり宿泊がお受けできていない状況がございます。来年度はもう少し拡充し、宿泊についても力を入れていきたいと存じます。

更には登録ヘルパーさんについてもう少し何とか拡充していきたいと考えております。皆様の周囲の方で、外出支援に興味がある方がいらっしゃいましたら、お知らせください。ヘルパー資格か、国家資格である介護福祉士をお持ちであれば、充分可能です。是非ご一報を期待してお待ち申し上げます。

最後に、この事業（移動支援、居宅介護事業等）のニーズは高く現在でも新規の方からお電話を頂く次第です。現在は「意思決定支援」という言葉がとても重要視されておりますが、「地域生活支援」という言葉もとても大切に取組んでいかなければならないかと存じます。ご本人様とご家族様が地域で安心して暮らせるかを如何にサポートしていくかという事を私たちが考えなければならぬ時期に来ていると思えます。

(山田)

北総育成園 作業班旅行①

〜農耕班・手芸班・林産班・紙工芸班〜

支援主任（林産班チーフ）菅谷大輔

総勢43名で茨城五浦、福島県いわき方面に行かせてもらいました。天候にも恵まれ2日間とも最高の旅行日和となり、全員楽しく行ってくる事ができました。

私は、五浦海岸・六角堂には初めて訪れたが、五浦の海は驚くほど透き通っており、とても綺麗だった。かの岡倉天心がここに六角堂を建て数々の絵画を描きながら人生を過ごしたことも納得できる景観だった。3・11の津波ではその六角堂が壊され、当時はこれも凄まじい事になっていた事を同時に思い知らされた。現在の六角堂は美しく復元され、その庭園などもとてもよく整備されていた。

昼食後は塩屋崎灯台、薄磯地区に向かう。4年前に訪れた時はまだ震災の爪跡が色濃く残り、流された家屋の基礎部分だけが無残な状態であったが、現在は

盛り土された防災堤防と護岸工事が終わりがつてのような光景とは180度変わっていた。高く盛り立てられた大きな堤防を壁にし、内側は整地され、そこにまた新たな住宅が2棟あった。自分がこの住人であったら盛り土されて堤防が出来たといえ、同じ地域にまた戻れるのか、とても考えさせられた。瓦礫などが山積みであった中学校は別の所に新たに作られ、復興住宅が5棟建築され被災した方の多くが生活しているのだと、改めて8年前の暮らしとは全く違う生活環境になっているのを痛感させられた。

今年で震災から8年目。未だ仮設住宅に生活している方。地元に戻りたくても戻れない方。また何かあったらと不安を抱えつつ地元にもまた家を建てて生活する方。色々な思いを馳せながら今も震災、原発事故の苦しみを

から逃れられずにいる方々がいることを4年振りに足を運んだことで考えなおす事ができました。私達は、福島・宮城・岩手の多くの方はまだ震災当時と変わらない状況にいる事を意識していく事が大事だと思います。何ができる訳ではないが、絶対風化させてはいけない事だと実感できました。

塩屋崎をあとにしてバスは一路、いわき湯本の宿「新つた」に到着。こちら4年ぶりに何う。仲居さんたちに気持ちの良い歓迎と心配りを頂き、温泉も良くて夜の懇親会も普段の作業の頑張りを十分にねぎらえる宴にできたとと思う。2日目に訪れたアクアマリン水族館。以前の作業班旅行でも足を運ばせてもらった。ここも震災の影響で魚の数が激減し、建物被害も甚大であり震災の爪跡が深くあったが、復興も進み、以前よりアクアマリン自体が拡張されており現地の方々の必死の努力を目の当たりにした。利用者さんの中にはその違いが分かり、「だいぶ変わったね」と喜ぶ人もいました。

今回4年振りの福島いわき方面への作業班旅行としたが、復

興が進むことは喜ばしい事ではあるが、被災にあった人達の思いや気持ちまではどうがんばっても復興は出来ない。それでも私自身がそのことを改めて考える機会となった事が本当によかったと思う。震災を風化させない為にも、これからも足を運ぶ機会を作っていきたいと思った。利用者さんの対応については、車いす参加者3名、食事や移動など色々事前準備が何よりも大切だと改めて実感した。今回色々と考えさせられることも多く、改めてこの人達の支援に一つ一つ丁寧に関わっていきたいと思う。2日間ありがとうございました。



笹川なずな工房

〜冬、旬の一品〜

支援員：金島 礼奈

笹川なずな工房は、今の季節、夏みかんの皮を使用したピールを製造しています。夏みかんの皮むきから切りこみ、茹でこぼし苦味を抜いて、砂糖煮、砂糖ころがしとひとつひとつを手作業で行っています。気温が高くなるとピールがきれいに乾燥できずに砂糖が溶けてしまう為、寒いこの季節ならではの商品でもあり大人気商品です。夏みかんは地域の方や工房で育てた物、保護者の皆様、職員からご協賛いただき加工してい

ます。工程として、①洗いはTさん。綺麗に洗い汚れを落としてくれます。②職員が切りHさんが皮をむき、③Kさんが専属で薄皮からの実取りとMさんSさんによる細切り、④乾燥させて砂糖を一つ一つまぶして頂く作業をAさんKさんGさん。すべて利用者さん一人一人のプロフェッショナルな手作業・流れ作業で丁寧に取り組んでいます。自然の力で乾燥させている為、製造には5日程かかります。風土村やあんしん村、銚

子にオープンした犬吠テラステラスなど常設店へも納品しており、毎週納品分の他に100個程、お客様からの注文を頂き納品しています。常設店で購入されたお客様が直接店頭で買物に来て下さり、「美味しいからある分だけ下さい！」と言われた時には驚いてしまいました。これ程、なずな工房の夏みかんピールをこの季節は心待ちにして下さっているのだと嬉しく、一つ一つを大切に製造しています。

今の季節は、東庄町にある磯山観光いちご園さんからの注文を沢山頂いており、シャムやマフィンの製造を行っています。製パン班のマフィンには、農産加工班で作るシャムを、マフィンの生地につぶり練り込ん

でいます。アイベリー苺ジャムの6種類が、いちご屋さん限定商品で、人気の一品です。

製造から納品、または販売と忙しい、時間があつという間の毎日ですが、皆、やりがいを持って仕事に励んでいます。旬の一品、笹川なずな工房の味を知って頂ければと思います。これからも、利用者さん、職員ともども作業技術の向上と、お客様に喜んで頂ける、美味しい製品作りが出来るよう心掛けて努めていきたいと思えます。

完成

夏みかんピール 1袋100円



後援会だより

さざんか会後援会 第三回評議員会 報告

平成31年2月12日(火)けいよう会議室をお借りして、今年度第三回目の評議員会を行いました。

藤澤会長のあいさつに続き、さざんか会宮代理事長から次のようなお話がありました。

①グループホームの現状について。

全国的なグループホームの増加に当たり、年々入居者が増えています。千葉県では、施設入所支援よりグループホームを利用して入居者が既に上回っています。

②グループホームの今後の在り方について

入居者数の増加や事業拡大に伴い、働く人材の育成や確保が

課題となります。また、大型化するることによって、グループホーム内での個別対応が難しくなることや、生活上の様々なルールの必要性が生じるといった課題もあります。利用者負担についても、収入の有無や給付金等も含めて考慮された形で入居できる場所が増えていくことが望ましいと考えます。

のまる泉施設長からは、学齢期の方たちへの支援の重要性について語られました。

また、来年度に行う講演会の予定について説明がありました。因みに、講師を務めてくださる池畑美恵子先生は、とらのこキッズ、さざんかキッズの療育向上のため、年3回ずつの巡回指導をお願いしています。

総会のお知らせ

平成31年度さざんか会
後援会 総会

平成31年6月4日(火)
場所：薬円台公民館

講演会のお知らせ

★2019年秋頃開催予定
・とらのこキッズ } 各1回
・さざんかキッズ }

※事前アンケートを基に講演を行います

講師：淑徳大学発達臨床センター
池畑 美恵子 先生

ありがとうメッセージ

平成30年度「NHK 歳末たすけあい」

さざんかキッズでは、200,000円の助成を受け
すべりだい・マット・ボール・トロツコ(総額301,240円)
を購入することが出来ました。

皆様のご浄財に感謝し、有意義に使用させていただきます。

さざんかキッズ 施設長 奥山 裕美

